

草木染め教室

平成...年...月...日(日)

...:..~...:..
参加者数 ...名

植物採集

10:30

総合公園第4駐車場に集合し、講師の紹介、草木染め教室の流れを説明しました。まず最初に、公園内で植物を採取します。



公園内で染色に必要な植物を探しました。自然観察を楽しみながら、どんな色に染まるか想像を膨らませつつ染まりそうだなと思うものを集めて袋に入れていきました。講師からの説明で、見た目と同じような色に染まるもの、見た目とは違った色に染まるものがあることや、同じ植物でも、植物が育った場所・季節によって染まる色が違うことなどがありました。どんな色に染まるのか？ということが染色の面白いところです。イネ科の植物は黄色にヤシャブシはきれいな茶色に染まることの説明もありました。熱心な方はメモを取りながら材料を探していました。植物を採取後、考古館の研修室に移動しました。



繊維・媒染剤・色の学習、古代の織物と染色の学習、染めのデザインの作り方についての学習をして、実際に作業を行いました。お昼ごはんを食べて、考古館の外に移動しました。

染めの工程

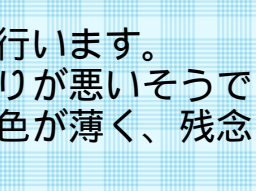
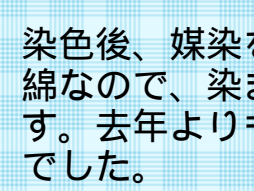
午後からは草木染めを実際に行いました。ステンレスの寸胴の中に採ってきた植物を入れて煮立たせておきます。ガスで行うので20分程度煮出します。1回目は1分目ぐらい煮立たせ、別の寸胴に移します。移すときに、ゴミが入らないようにコシ取ります。2回目は半分以下の水を入れて、じっくり煮込みます。3回目は、回目の染液が薄まったときに足して使うために濃いめにつくりました。別のコンロでは、焼きミヨウバンを溶かすために湯を湧かして溶かします。



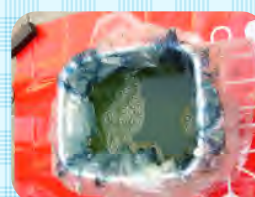
染液ができあがると、染めに入ります。今回は藍染めと並行作業をしますので、染色媒染 染色で終了です。20分ずつなので1時間ぐらいかかります。



染液です。今回は茶色く出ました。



染色後、媒染を行います。綿なので、染まりが悪いそうです。去年よりも色が薄く、残念でした。



藍染めの行程です。藍の入ったバケツに、分漬けます。アンモニアが入っているので、においがきつく、顔をしかめながら漬けています。



分漬けたら、空気媒染します。そうして水洗いをします。その後また藍に漬けて空気媒染します。これを3回繰り返します。



藍から出した直後は緑色ですが、水洗いをすると緑色が抜けて綺麗な藍色になりました。オリジナルのハンカチできあがって染めの基本を。自宅でもやってみるといふ参加者が何人もいて充実した観察会ができたと思います。

講師
小澤 志保里(草木染め教室 講師)
梅木 謙一(松山市考古館)
藤原 陽一郎(NPO法人 愛媛生態系保全管理 理事)